

イチゴ生産 5人が一歩

J A全農岐阜で
就農研修修了式

全国農業協同組合連合会
県本部(J A全農岐阜)が



研修を終え、修了証書を受け
取った研修生ら。岐阜市宇佐
南、J A会館

岐阜市で運営するいちご新規就農者研修所の修了式が31日、同市宇佐南のJ A会館で開かれ、第13期生の5人がイチゴ生産者としての新たな一歩を踏み出した。

同研修所は、生産者の高齢化などから生産量が減少傾向にある県産イチゴの担い手を増やそうと、2008年に開設。研修生は14カ月にわたって栽培技術や農業経営の知識などを学び、これまでに45人が県内でイチゴ生産者となっている。

修了式で西村寿文県本部長は「同期や先輩、地域の方々を大切にしながらイチゴ栽培に取り組んでほしい」と話し、5人に修了証書を手渡した。

研修生は一人一人抱負を語り、各務原市で始める元会社員の丹羽亜季さん(24)は「自分が大好きなイチゴ、特に美濃娘を他県の人にも知ってもらえるように頑張っていきたい」と意気込んだ。